



「多様性」への展開

大宮 克己 一般社団法人日本エレクトロヒートセンター 理事

成田から約8時間。飛行機は無事着陸し、タッキングを開始した。見慣れた茶色の屋根を持つ独特のターミナルビルを見つつ、駐機場へ。

まず、アライバルビザを購入し、イミグレーションへ。到着時間によっては、ここで1時間以上並ぶことになる。今日も1時間以上を覚悟し、列に並んだ。待つこと10分、突然、セキュリティーが、我々を整列させているロープを外す。ここがチャンス。真っ先に列を離れ、出口へ向かう。そこにはローカル専用のイミグレーションカウンターが待っている。

専用カウンターが空いた為、外国人に開放した訳である。おかげでイミグレーション手続きは15分で終了。荷物を取り、空港の外へ出る。いつものように、ムツとした熱気が私を歓迎してくれた。そのまま、この国で一番安全と言われているシルバーバードのタクシーに乗りホテルへ向かう。本来は空港内カウンターでタクシーを申し込まなければならないようだが、駐車場にタクシーが居れば、その手続きを飛ばして、さっさとタクシーに乗り込める。町の中心部のホテル名を告げ、どれぐらいで着くか運転手に聞いてみる。

「1時間から2時間、渋滞が無ければ40分。結局わからない。」と、いつもと変わらない答えが返ってきた。経済成長に伴い、自動車の数が急速に増え、道路などのインフラ整備が追いつかない新興国の現状がここにある。ここはインドネシアである。

私は仕事の関係上、過去10年で50回以上、同国を訪問している。東南アジア最大の人口を擁し、大小17,000の島、490の民族集団からなる海洋国家であり、現在は、マレー語に近いインドネシア語に統一されているが、実際は583種以上の言語を持つ多言語国家である。日本にも各地方に方言があるが、この国の方言はひとつひとつの単語自体が全く異なり、彼らの出身地の言葉で話されると、他のインドネシア人でも理解できないほどである。

インドネシアは、これら多様な文化を穏やかに継続させ、発展させている国家と言える。

このことが、即ち、彼らの思考の柔軟性を高め、イミグレーションにしる、このタクシーにしる、日本人から見れば、いい加減なシステムだと感じてしまう行動を許容する下地を作っているのだと理解している。

(本当は、現地での事業運営に当たり、このことが一番頭の痛い特性ではあるが。)

インドネシア観光省公式ホームページにも紹介されているが、「究極の多様性」がぴったり当てはまる国だと感じている。

昨今、「多様性」という言葉をよく聞く。人間の多様性、生物の多様性、文化的多様性、等々。難しい話はさておき、私の所属している電気加熱業界においても、ハイブリット加熱といった、今までにない手法が進んできている。抵抗加熱と誘導加熱の融合等である。

加熱と言う行為に対し、それぞれが方法の優劣を競うのではなく、加熱方法の多様性を認め、新たな可能性を導いていく流れである。この流れは当分続いていくと、各業界は予想している。我々、日本エレクトロヒートセンターにおいても、このような動きを見逃さず、加熱の多様性を含めた、包括的な電気加熱技術の発展を視野に入れた活動を進め、会員様のニーズに応えていきたい。

(おおみや かつみ) 高周波熱錬株式会社 取締役 製品事業部長